

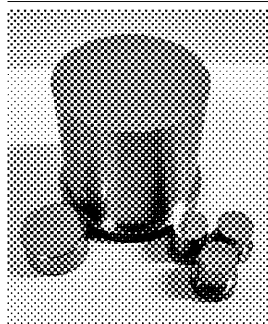
複雑な表面形状に対応

光学レンズ向け金型材料

富士ダイス

富士ダイスは複雑な表面形状を持つ光学レ

ンズ成形用金型に活用できる、新しいガラスレンズ成形用金型材料（写真）を開発した。600度C時の熱膨張係数が毎7・9^{メガ}（メガは100万）で、従来のガラスレンズ成形用金型材料とは異なり、多種多様なガラスの種類や形状の成形ニーズに対応可能。近く試験販売を始め、2027年4月の本格的な発売を目指す。価格は個別見積もり。温度上昇と膨張の割合を示す熱膨張係数は400度C時には毎7・4^{メガ}、800度C時には毎8・4^{メガ}で、顧客の要望が多かった熱膨張係数の値を実現した。コバルトやニッケルの結合剤（バインダー）をほとんど含まず、炭化タングステンなどの硬質粒子だけで構成されたバインダーレス超硬合金よりも軽量ながら同等の鏡面性を持つ。耐酸化性に優れ、700度Cの大気中でもほぼ酸化しない。



26日に東京ビッグサイト（東京都江東区）で開幕する日本国際工作機械見本市（JIMTOF2026）に出展し初公開する。